

柏原市議会議員

山口ゆか

柏原力UP ↑

Vol. 4
H27 夏号

活動報告

日頃の活動報告はブログ・Facebookで配信中

山口ゆか

検索

子どもたちの未来により良い教育と環境を

6月議会で市から提出された教育に関する補正予算案

案 柏原・柏原東小学校を柏原中学校に移転して施設一体型一貫校を新設するとき
民間の資金やノウハウを活用するPFIを導入する場合の費用を調査する委託料

説明 教育面 現在の分離連携型ではなく施設一体型一貫教育をめざすということ
費用面 PFIなどを活用し市の負担を軽減して費用を捻出しようとしている

案 柏原小学校・柏原東小学校・柏原中学校の耐震工事設計費用の減額

説明 施設面 建物の老朽化により約10年後にふたたび建替問題が発生するので
今回の耐震工事設計費用を見送る考え

安全面 子どもの命を預かる機関として震災対策は欠かせないが、この案では耐震工事をしないことになってしまう

山口ゆかの考え方

◆小中一貫教育の次のステップとして施設一体型一貫校を◆

- ・現代の子どもの成長に応じた新たな学年割を→6・3制から変更も可能
- ・小学校低学年は基礎の徹底を、高学年から教科担当制導入→学力向上
- ・縦の学年のつながりができる→さまざまな学年のリーダーシップの育成
- ・中1ギャップがなくなる→いじめ、不登校など諸問題の減少へ

◆子どもたちの安全は行政が守るべきもの◆

- ・耐震工事をしないなら何らかの措置を→震災対策がないなら耐震工事を
- ・通学路が拡張される→歩道の拡張や送迎バスなどの導入を

◆財政が厳しいので予算確保に知恵を◆

- ・義務教育学校制度→国の補助金を活用
- ・PFI以外のものもしっかりと検討(定期借地や売却など)

結果 本会議、総務文教委員会で議論の末、調査委託料は可決、耐震工事設計費用の減額案は取り下げられ当初の予算通りとなりました

提案 柏原地区だけでなく、国分地区・堅下地区・堅上地区も含め全市的に計画して進める子どもの成長に応じた教育を大人が責任をもって考える

施設一体型の小中一貫校の実現を

これらをふまえ質問しました / 参照

命

平成27年4月26日(日)
リビエールホールにて
山口主催で開催しました

講演会
「いのちについて」



いじめ、自殺、虐待という言葉をニュースで多く耳にします。当たり前に過ごしている日常では気づかない、忘れてしまっている大事なもの。今一度、生きること、命について考える場をつくりたくて講演会を開催しました。

一部の講演では助産師の西川さんに生命誕生の奇跡、神秘などを語っていただき、改めて生きる力強さ、生きることの尊さ、生まれてきたことへの感謝を感じました。

二部のライブでは歌手の山口采希(あやき)さんをお招きし、現在、北朝鮮に拉致されたまま日本に帰国できない被害者とその家族の想いを綴った歌『空と海の向こう』を歌っていただきました。シンプルでストレートに心に響く歌、その命の叫びに会場は涙があふれました。

そして最後に、なぜいのちについて今回の講演をしようと思ったのか、現在どのような活動をしているのか、今後どうしていきたいのか、などを私からお話をさせていただきました。

大家族で暮らしているといのちと向き合う機会があります。兄弟の誕生や祖父母の死などです。新しくいのちが宿り、家族が増える、あるいは大事な人の永遠の別れといった形でいのちの大切さや尊さを身を以て体験し学びます。しかし、核家族になるとそのような体験をする機会が減ります。戦後、たくさんの子どもが生まれ、親との同居をする者以外は家を出て暮らしました。核家族は必然の構造で、核家族が悪いということではありません。

ブルーリボンの会 北朝鮮による拉致被害者の救出を支援するため、「ブルーリボン運動」を国内外のできる限り多くの人々に普及する活動を行っています。

北朝鮮によって拉致された日本人を一刻も早く帰国させるため活動しています。

被害者家族は高齢になり残された時間は少なくなっています。

決して他人ごとではありません。

今こそ日本人が一丸となり拉致された方々を日本に絶対に取り戻しましょう!

署名活動を行っていますのでご協力を願いいたします。



問) 小中一貫教育の今後の取組について問う



部長 大綱で施設一体型一貫校の計画を推進

→新しい教育課程の導入が可能になる、教育効果を高めることができる

山口 耐震問題、通学範囲拡張、財政的にも課題はいろいろあるが、柏原市の教育が大きく変わろうとしていることに大きな期待がもてる。

小学生から中学生まで同じ学校に通うことは大きな意義がある。たとえば、小学3、4年生のあいだで揉め事があるとき、中学3年が「どうしたんや?」と声かけすることから始まり、上の子が下の子の世話をし、様々な学年でリーダーシップがうまれ、いじめやその他の問題解決につながるのでは。

また、施設一体型にすることで中学生にスポットがあたると期待する。リーダーシップを発揮できる場が増え、地域交流や自信につながる。

つぎに通学路の拡張問題について、大県本郷線のアンダーパス工事の進捗状況は?

部長 今年度は設計業務、来年度から着工し3年を目途に、1年で付帯工事

アンダーパス関連工事は4年半後の開通見込。



通学路の安全確保は最優先事項である。

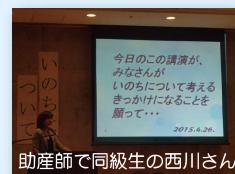
一貫校になれば第二次性徴に合わせ柔軟な学年割が実現できるのでは?

部長 6・3制の硬直的な区切りについては検討が必要

現在実施校では小学校に中学校の先生が入ることにより中1ギャップ、いじめの増加率が半分以下になったという報告がある

6・3制にこだわることなく子どもの成長に対応した教育を推進する

山口 第二次性徴を終えた中学生が幼稚園や小学低学年の世話をする機会を設けた場合、より一層の母性がはたらき、これこそが出生率の向上や少子化対策の根底につながることにもなると考える。この大きな意義を果たすため、施設一体型の小中一貫校を推進する。ぜひ、柏原地区、国分地区、その他地区にも波及し、より良い教育と環境の提供を要望する。



助産師で同級生の西川さん



歌手の山口采希さん



山口由華

いのちと向き合う機会をつくるのは、地域のなかでも可能です。赤ちゃんから高齢者まで、いろんな世代の交流の場があれば、そこで出会うことでその人のいのちと向き合うことができます。子どもであれば、上の子が下の子のお世話をする、子育て中の新人ママさんをベテランママさんがサポートする、ご年配の方々からいろんなことを学ぶ、といったコミュニティづくりのなかから疑似体験もでき、人と人のつながりが生まれます。

柏原市の人口減少問題は深刻です。2040年消滅可能性都市に柏原市も入っています。人口を増やす政策が喫緊の課題です。柏原市は子育て政策、教育政策に力を入れ取り組んでいます。しかし、子育て政策だけでは出生率は向上しません。子育て政策と出生率の相関関係がないというデータがあります。別に出生率向上政策が必要です。

そのためにも、出産可能年齢(15歳から45歳)の女性の人口を増やすことを目標にすること、女性がこのまちに住んで結婚し、子どもを産み育てたいと思ってもらうまちづくりを提案しています。いのちと向き合い、いのちを大切にして、安心して暮らせるまちをめざします。

第二回いのちの講演会の開催に向け取り組みます。そのときはぜひお越しください。



早いもので9月で議員2年がたちます。いつも市民の皆さんから温かい励ましの言葉をかけていただき感謝いたします。6月議会を終え、4回目の個人質問を終えました。今回も財政の状況、病院の問題、小中一貫教育の充実、恩智川多目的遊水地の上面利用の進捗、産業振興について取り上げました。財政状況は依然厳しいものですが市民サービスを低下させるわけにはいきません。何がムダで何が必要なのかの判断は非常に重要です。今後もしっかり提案してまいります。

2年がたちます。いつも市民の皆さんから温かい励ましの言葉をかけていただき感謝いたします。6月議会を終え、4回目の個人質問を終えました。今回も財政の状況、病院の問題、小中一貫教育の充実、恩智川多目的遊水地の上面利用の進捗、産業振興について取り上げました。財政状況は依然厳しいものですが市民サービスを低下させるわけにはいきません。何がムダで何が必要なのかの判断は非常に重要です。今後もしっかり提案してまいります。

2回

平成27年第2回定例会

個人質問の内容

問) 財政の現状と今後の財政運営について問う

部長 平成26年度決算見込みは1200万円の黒字
5年ぶりに財政調整基金を取り崩しての決算

大手企業の増収による法人税の増以外は、人口減少などにより市税の増収は見込めない状況
社会保障経費、公共施設の維持、耐震化費用、国民健康保険、介護保険、後期高齢者医療などへの義務的経費の増で、削減は極めて困難な状況
引き続き、行財政改革に取り組み、歳入の確保、経費の節減や事業の見直しで財政健全化に努めていく

山口 足りない分を貯金で埋めている状況であるので、埋めた分を回復し、次に備えなければいけない。
このようななか、今後の財政運営で重要な課題は何か。

部長 人口減少などで収入の増が見込めない一方、削減困難な経費の増の財政運営のなか聖域分野へ切り込むなど、事業を選択、集中し見直す
また、病院事業会計への繰出の動向など病院経営も影響てくる

山口 今年度から公共施設等総合管理計画の策定で資産を総点検していかれるが、そのなかで過去からの流れで資産が集中しているところを精査していく、身動きのとれない資産をキャッシュに変えるなどの転換が必要である。

出生率向上政策で人口の底上げによる市民税のアップ、産業振興による市民法人税のアップを図り、歳入の確保の努力を。
2040年問題、消滅可能性都市を回避するため全庁あげての取組を。

問) 市民病院あり方検討委員会の答申を受けて見解を問う

山口 答申で資金不足や八策プランの不十分さを厳しく指摘されているがどう検討されるか。

局長 救急体制のさらなる充実、診療体制の強化で医業収益を図る
一方、診療枠の再構築、診療材料費の抑制・削減に努め、答申の指摘を早期に実現していきたい

山口 医業収益が伸びる一方、費用の抑制や削減などの努力はされてるが大幅な改善策には結びついていない。
経常費用を府下平均に近づける努力が必要。
全体的な費用の見直しについてはどうか。

局長 非常勤医師の見直し、薬品費、材料費の削減、市民ニーズから医療機能の集約も考慮に入れ、いくつかの分野に特化するなど体制を見直し、あり方を検討していく

山口 答申を見てみると、職員給与費は府下平均より10ポイント高い。
人数を減らすわけにいかないのであれば単価を減らすことも考慮し全体的な費用を抑える必要がある。

医療政策として民間医療を考慮に入れ、柏原市にとって市立柏原病院はどうあるべきと考えるか。

局長 地域の基幹病院を自覚し「心あるより良い医療の提供」の基本理念のもと、経営の安定化を図り、安全で安心できる医療の提供をしていく

山口 柏原市を見渡し、民間の病院も考慮に入れたうえで、何が必要で何が必要でないかを分析し、市民全体の安全安心のために、柏原市民病院がどういう病院であるべきかをというビジョンをもって柏原全体の医療政策の中心になっていくことが公設公営病院の役割であるべきと考える。
市民病院がリーダーシップをとり、市民の安全安心のため包括的な地域医療政策を推進していただきたい。

議会の動画は <http://www.gikai-web.jp/dvl-kashiwara/2.html>

プレミアム付商品券について

国の政策、地方創生補助金を利用し、7月1日より販売されたプレミアム付商品券ですが、ひとりの購入限度が1万円1冊（20%のプレミアムが付与され12,000円分）のところ5冊まででしたので、購入希望者全員に行き渡ることができず、午前も午後も販売開始時刻には完売となり、市民の皆さんには大変ご迷惑、ご不便をおかけすることになりました。

山口ゆかのホームページでは市民の方からのご意見を募り、集約して担当課に届けました。今後も、なにかご意見などがございましたら、電話・FAX・メールで受け付けていますのでお寄せください。お待ちいたしております。連絡先は右記をご参照ください→

問) 恩智川多目的遊水地の上面暫定利用の進捗状況を問う

部長 現在、府と協議中（年度内）グラウンドや広場などを整備イメージできるだけ早期にまとめていく

山口 スケジュールはどうか。完成時期はいつごろになるのか。

副市長 年度内に協議を終了後、パブリックコメント等で市民意見を取り入れていきたい

山口 市民が利用できるよう早期に整備を

柏原中学 柏原中学が今後、工事等でグラウンドが使用できなくなる場合、代替地として各種団体が空白なく継続利用できるように

問) 産業振興について問う

山口 経済発展の施策として、新規や既存の商工業者などへの直接的な支援について、市はどのように取り組んでいるのか伺う。

部長 新規の創業者に経営セミナー個別相談、登録免許税の軽減、融資枠の拡大等の支援をする

既存の業者には企業サイトをたちあげ、情報等のデータベース化を図り、国内外との取引に繋がりができたり、求人情報の発信をする

山口 特に商店においてはもっと直接的な支援を必要としておられる。

以前より提案しているフリーwi-fiの整備についてはどうなっているか。

部長 地域活性化支援交付金等を活用し、市内3か所の公共施設等に設置予定

山間部などの電波状態が良くない地域でもネットへの接続が可能となりサイクリストやハイキング愛好者などのリピーターの確保につながる

このあと、残念ながら残り時間が2分となり、用意していた提案が一言程度しか言えずじまいでの終わってしまいました。

その内容は次回の個人質問で投げかけたいと思います。

その内容とは

一部の地区の商店さん数軒から「まちの活性化につながるよう商店が集まって年に2回のイベントを行っており、そのチラシをできれば市内全域に配布してPRしたい。しかし民間業者から全戸配布は難しいと言われて困っています。市内全域に配布している「広報かしわら」のルートが使えないかな」という声をいただいている。

現在「広報かしわら」の配布方法は、市→行政協力委員さん（区長）→各組長→各家庭となっています。

民間のチラシと市の広報をタイアップさせて、新しい「チラシサービスパック」を作りませんか、という提案です。

質問通告のための打ち合わせ時に、市の担当課は行政協力委員の仕事を増やすことになること、市が民間の利益のためにすること、この2点において否定的な回答でした。

しかし、官民一体の協働の精神において、まちの活性化のために新しい取組を展開することはいい刺激になると考えます。

7月に行われた『まちの魅力発見塾』で樋渡元武雄市長がお話をされていた中で、市の広報のなかにピンポイントでお店を紹介していたそうです。

やればできるのです。規制を緩和し、柔軟な取組が必要なのです。

実現に向け
取り組みます！

公約⑥地域振興 ●地域の活性化

各地域で盛んな祭りはもちろん、もっと大きな規模の祭りなどで他市からも人を呼び込み、盛り上げ、地域の活性化を図ります。



後援会会員を募集しています。ウェブサイト・電話・FAX・メールで随時受付中！

山口由華後援会

〒582-0005 柏原市法善寺2-3-23
tel. 072-921-7430 fax. 072-926-5077

ウェブサイト
<http://yamaguchiyuka.com>
メールアドレス
info@yamaguchiyuka.com